

## 山形県森林審議会 森林保護部会 議事録

- 1 日 時 平成 25 年 3 月 18 日（月）14 時～
- 2 場 所 山形県自治会館 201 号会議室
- 3 委 員 秋野公子、小山勝子、佐竹弘一、佐藤景一郎、内藤いづみ、船渡川葉月、  
（小池克敏） 委員 7 名中 6 名出席 ※（ ）は、欠席委員
- 4 審 議
  - ・開 会 農林水産部森林課長あいさつ
  - ・審議会の成立 委員 7 名中 6 名出席
  - ・議 事

### （1）諮問事項

- 諮問第 1 号 山形県松くい虫被害対策推進計画の策定について
- 諮問第 2 号 山形県ナラ枯れ被害対策推進計画の策定について

### ＜佐藤部会長＞

議事に入る前に、議事録署名人を秋野委員、小山委員の御両名にお願いしたい。

本日は、知事から諮問を受けている 2 件について審議いただく。諮問第 1 号及び第 2 号を一括して事務局から説明をお願いします。

### [事務局:細谷森林管理主査]

資料 1～4 により説明。

### ＜佐藤部会長＞

質問・意見をお願いします。

### （内藤委員）

松くい虫とナラ枯れ被害とも、前計画を策定してから被害が減少していることは喜ばしいことである。そのことは理解できるが、具体的な施策そのものについて前計画をどのような検証しているのか。

### [事務局:細谷森林管理主査]

防除方法自体は限られており、（防除と駆除を）組み合わせて対策を実施してきた。被害の拡大を防止するためには、本来なら薬剤を散布して守るというのが一番有効であるが、国の関与が減り、国の補助金も減ってきており、事業量が落ち込んでいる。そのような中で、被害が減ったのは、防除事業を継続的に行ってきた結果、被害を受ける資源そのものが減ってきているのではないかと考えている。

### [事務局:渡邊森づくり推進主幹]

松くい虫の計画については 23 年度で一度期限が切れ、24 年度分の事業については、24 年 6 月に協議会を開催し、その中で単年度の事業計画の承認を得て事業を実施してきた。今回は、その単年度の計画も含めた形で 5 か年の計画としてまとめている。

ナラ枯れの計画については 3 か年の計画になっている。これはナラ枯れの被害の発生状況が地域ごとに大きく変わってきており、最近では、村山、置賜地域の東部に被害の中心が移ってきている。また、防除方法についても合成集合フェロモンの開発等、昨年度農薬登録されて使えるようになったが、現在行っているのは、ナラ枯れ被害が入りつつあるナ

ラの木を先に伐採して、チップ等に利用することにより被害を食い止めるとともに、被害木の切り株から出た若い芽を育てて林の若返りを図る手法である。その際に伐った丸太を積み上げて、虫が飛んでいる6月下旬から8月下旬にフェロモンをつり下げ、大量の虫をおびき寄せたところで、その丸太を処理することで虫の密度を下げるができる。しかし、このやり方では6月下旬までに伐採を完了する必要がある、期間的に厳しいところがある。現在、伐る前の木にフェロモンをつり下げ、虫が入ったところで伐採する手法も検討中であるが、これは虫が入った木を確実に伐採しないとイケないため、このやり方については、今後検証しながら確立していきたいと考えている。この検証状況なども見ながら計画を必要に応じて変更していきたいと考えていることから、計画期間を3か年としたものである。

いずれは、松くい虫、ナラ枯れの両計画とも同じ始期終期になるようにしていきたいと考えている。

#### <佐藤部会長>

他に意見等がないようなので、諮問第1号及び第2号については、適当であると認めてよろしいか。

#### (各委員)

異議なし

#### <佐藤部会長>

異議がないことから諮問第1号及び第2号については、適当であると認めることとする。

### (2) その他

#### <佐藤部会長>

続いて、その他に入りたい。委員の皆さんから質問・意見等はないか。

#### (秋野委員)

伐った木の破砕作業は、伐ったその場で行い焼却するということか。

#### [事務局:渡邊森づくり推進主幹]

伐採した木は、丸太のままトラックでチップ工場等に運び破砕している。破砕したものはパルプやペレット、燃料用のチップとして利用される。破砕されれば、中の虫も死んでしまう。

#### (秋野委員)

作業道が整備されていない場所は、虫が入っていても被害の現場に行けないのではないか。また、他県との技術交流は行っているか。

#### [事務局:渡邊森づくり推進主幹]

特にナラ枯れについては、奥地にも天然のナラ林があり、急傾斜のところは手が出せない。そうでないところは、県の補助事業で作業道の開設もセットで伐採できるようなメニューがある。

ナラ枯れの防除方法は山形県が最先端を走っていることから、他県との技術交流については、本県から隣接県の方に行って本県の状況や防除の仕方等を説明するなど、他県の研

修等に活用してもらっている状況である。

<佐藤部会長>

他に何も無いようなので、これで議長を役目を終了する。

以上